

1 題材名 日本伝統音楽のよさや美しさを味わおう

2 題材の目標

- (1) 箏の音色や奏法，平調子による旋律，構成に関心をもち，鑑賞したり，箏のための簡単な旋律をつくったりする学習に主体的に取り組む。
- (2) 箏の音色，平調子による旋律などの箏の特徴を感じ取って音楽表現を工夫し，どのように旋律をつくるかについて思いや意図をもつ。
- (3) 箏の特徴を捉えた音楽表現をするために必要な，箏の基礎的な技能，記譜の仕方などの技能を身に付ける。
- (4) 箏の特徴を捉え，箏曲のよさや美しさを味わって聴く。

3 主な〔共通事項〕 音色，旋律，速度，構成

4 題材設定の意図

本題材は，箏を教材とし，A表現(3)創作の事項ア「言葉や音階などの特徴を生かし，表現を工夫して旋律をつくること」，B鑑賞の事項ア「音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを感じ取って聴き，言葉で説明するなどして，音楽のよさや美しさを味わうこと」を主な学習・指導内容としている。

本学級の生徒は，音楽の授業に意欲をもって取り組む。1学期に実施した和楽器の学習では，箏を用いて「虫づくし」と「さくらさくら」を演奏する中で，楽器の構造や記譜，奏法を学んだ。ここで用いた箏が，初めて触れる和楽器であった生徒がほとんどで，興味・関心をもって学習に取り組んだ。また，弦をはじいた爪を次の弦で止めて演奏することがよい音色を奏でることにつながるということに気づき，手の形や弾く位置など，基本的な奏法を身に付けようと努力する姿が見られた。これらの基本的な奏法については，\*人のうち\*人の生徒が身に付けて演奏することができた。

そこで，箏を用いた創作及び鑑賞における題材構成，教材の工夫をする。箏には様々な奏法があり，それぞれの奏法によって多彩に音色や響きが変化するという魅力のある楽器である。箏という楽器でしか表せない音色や響きを十分に味わわせるとともに，その表現を体験できるようにしたい。そのために，鑑賞では，箏曲「六段の調」を取り上げる。箏曲を代表する曲として広く親しまれている楽曲である。初段の冒頭から「ヒキイロ」が表れ，音の揺れから始まるためその音色の変化に強い印象を受ける。曲の中には「後押し」，「トレモロ」，「流し爪」，「合わせ爪」，「スクイ爪」，「スリ爪」など，様々な奏法が用いられており，それぞれの奏法による様々な音色の違いを味わえるようにする。創作においては，日本の四季を表した俳句を手掛かりに，言葉の抑揚や様々な奏法を生かして，イメージを膨らませながら箏のための簡単な旋律をつくる。このような創作と鑑賞の学習を通して，箏のよさや美しさを味わわせたいと考える。

5 教材について

鑑賞教材：箏曲「六段の調」 八橋検校 作曲

## 6 題材の評価規準

ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能	エ 鑑賞の能力
<p>① 箏の音色や奏法，平調子による旋律の特徴に関心をもち，音楽表現を工夫して簡単な旋律をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>② 我が国の伝統音楽の特徴に関心をもち，鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	<p>① 箏の音色，平調子による旋律を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら，箏の音色や奏法，平調子による旋律などの特徴を感じ取って音楽表現を工夫し，どのように旋律をつくるかについて思いや意図をもっている。</p>	<p>① 箏の奏法や平調子による旋律などの特徴を生かした音楽表現をするために必要な，音の組み合わせ方や記譜の仕方などの技能を身に付けて簡単な旋律をつくっている。</p>	<p>① 箏の音色，平調子による旋律，速度の変化や構成を知覚し，それらが生み出す特質や雰囲気を感じながら，言葉で説明するなどして箏曲のよさや美しさを味わって聴いている。</p>

## 7 学習活動と評価の計画(5時間扱い)

次	ねらい	主な学習活動	[共通事項]	題材の評価規準
第1次 (1)	○箏の様々な奏法による音色の変化に気付く。	<p>㉞ 箏曲〈六段の調〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音色の変化や様々な奏法に着目して聴く。</li> <li>・様々な奏法を試す。</li> </ul>	音色 旋律	アー②
第2次 (3) 本時は 第2時	○箏の音色や平調子による旋律を工夫して，イメージに合った旋律をつくる。	<p>㉟ 「俳句のイメージを，箏の旋律にのせて伝えよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアで旋律をつけたい俳句を選択し，言葉の抑揚に合わせて旋律をつくる。</li> <li>・様々な奏法を試しながら，旋律を装飾し，音楽表現を工夫する。</li> <li>・つくった作品を演奏し，発表する。</li> </ul>	音色 旋律	<p>アー① イー①</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>イー① ウー①</p>
第3次 (1)	○「序破急」を感じ取るとともに音色や音高の変化のよさを味わい，紹介文を書く。	<p>㊱ 〈六段の調〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・速度の変化に着目して鑑賞し，「序破急」を感じ取る。</li> <li>・〈六段の調〉の紹介文を書く。</li> </ul>	音色 旋律 速度 構成	<p>アー② エー①</p>

## 8 本時の学習(第2次，第2時)

### (1) ねらい

○箏の音色を生かして旋律を飾る活動を通して，俳句のイメージに合った旋律をつくる。

### (2) 準備・資料

箏 爪 ワークシート 掲示物(フラッシュカード，拡大楽譜，俳句 自己評価カード)

(3) 学習の展開

学習内容と主な学習活動	教師の働きかけ（◆評価規準）
<p>1 本時の学習課題をつかむ。</p> <p>(1) 様々な奏法の確認をする。</p> <p>(2) 活動の進め方を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>俳句のイメージに合う奏法を探して旋律を飾ろう。</p> </div> <p>2 音楽表現の工夫をする。</p> <p>(1) 工夫したいことをペアで話し合う。</p> <p>①俳句のイメージの確認</p> <p>&lt;例&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・春らしいのんびりした感じ</li> <li>・桜が散る華やかな感じ</li> </ul> <p>②表現したい音楽のイメージから奏法を探す</p> <p>&lt;例&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・桜の散っていく感じを出すために、弦をはじいてみる。</li> <li>・流し爪を入れると華やかな感じがでる。</li> </ul> <p>(2) ワークシートに記譜をしたり、つくった旋律を演奏したりする。</p> <p>3 工夫をしたことについてまとめる。</p> <p>4 本時の学習のまとめをし、次時の課題をつかむ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習曲の「虫づくし」「さくらさくら」を演奏することで、学習の雰囲気作りをするとともに、演奏姿勢や奏法などについて、ペアで確認し合うことができるようにする。</li> <li>・フラッシュカードを用いて、記譜とその奏法を結びつけながら右手の奏法、左手の奏法を確認し、本時の創作活動への導入とする。</li> <li>・第1時で用いたそれぞれの奏法による音色や響きの印象の違いをまとめたワークシートを手掛かりにして、学習を進めていくことを伝える。</li> <li>・拡大楽譜を用いて、飾りのつけ方とその記譜の仕方を実際に示し、活動の見通しがもてるようにする。</li> <li>・自分たちの表現したいイメージに合った音は、どのような奏法を用いればよいのか話し合い、実際に音を出し、試しながら創作を進めていくよう助言する。</li> <li>・旋律のどこを飾りたいのかが決められないペアには、まずは五、七、五の旋律の終わりに着目して装飾を入れることから取り組むよう、助言する。</li> <li>・活動が進んでいるペアには、自分たちのつくった箏のための旋律のよさを伝えるために、どのように演奏したらよいのかを考え、演奏できるように、助言する。</li> </ul> <p>・ワークシートに、作品のイメージとそれを伝えるために工夫した点について説明を記入する。</p> <p>・本時の活動において良かった点を賞賛し、次時は、発表会をすることを知らせ、意欲付けとする。</p> <p>◆音楽表現の創意工夫</p> <p>箏の音色、平調子による旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、箏の音色や奏法、平調子による旋律などの特徴を感じ取って音楽表現を工夫し、どのように旋律をつくるかについて思いや意図をもっている。</p> <p>(評価方法：ワークシート、作品、観察)</p>